

第45回ローザンヌ国際バレエコンクール2017

中尾太亮さん3位、山元耕陽さん4位 ローザンヌ国際 バレエコンクール決勝

上原亜紀子

2017-02-04 19:34



ローザンヌ国際バレエコンクール2017決勝で3位の中尾太亮さん。クラシック・バリエーションでは「白鳥の湖」第三幕の黒鳥を優雅に踊った

(swissinfo.ch)

今年のローザンヌ国際バレエコンクールの決勝で、笑顔溢れる愛媛県出身の中

尾太亮（たいすけ）さん（17歳）が3位、東京都出身の山元耕陽さん（15歳）が4位に輝いた。中尾さんも山元さんも、将来は英国のロイヤル・バレエ団を目指すという。

3位を獲得した中尾さんは受賞直後、「もう信じられないくらい嬉しくて」と笑顔で目を輝かせた。決勝での踊りは、「自分なりにすごくがんばったし、楽しく踊れたと思います。でもまだ納得のいかない部分もあって、完璧とは言えない」と振り返る。「自分では、コンテンポラリーも良かったと思います。でも、それよりもクラシックのほうが緊張もした分がんばってうまく踊れ、また楽しんで踊れたと思います」と自己評価した。

中尾さんは、クラシック・バリエーションでは「白鳥の湖」第三幕の黒鳥を優雅に踊った。7歳からダンスを始めたという中尾さんは、現在はドイツ・マンハイムバレエアカデミーで学んでいる。今後の目標は、「入賞者として恥じないように、有名なバレエダンサーになりたいです」と述べた。

一方、アクリ・堀本アカデミーに所属している山元さんは、「すごく嬉しい。この舞台上で踊れたことが楽しい。さらに賞をもらったことが嬉しい」と感想を述べ、「これからはこれをバネにして、海外で活躍できるダンサーになりたいです」と話した。



コンテンポラリー・バリエーションの「ソ・ノイエ・マル・カルフ」を踊る山元耕陽さん
(15歳)

(swissinfo.ch)

今日の踊りは、「コンテンポラリーの方が良く踊れた」という山元さん。コンテンポラリー・バリエーションでは青春を描いた「ヨンダリング」を踊り、「賞を取ることもよりも楽しむことに重点を置いて踊った」と語った。将来は、「クラシックがやりたいので英国ロイヤル・バレエ団へ行きたいと思っている」という。

1位に輝いたのは、コンテンポラリー・バリエーションの「ニジンスキー」を迫力のある踊りを披露したイタリアのミケーレ・エスポジートさん(17歳)で、チューリヒ・ダンス・アカデミーで稽古をしている。優勝して「興奮している。信じられない」と喜びを語った。「感情表現豊かなダンサーになりたい」との抱負を述べた。

今回、審査委員長を務めた英国ロイヤル・バレエ団の芸術監督のケヴィン・オヘア氏は、「大きなバレエ団で踊るということには、才能以上のものが必要とされる。知的だが遠慮や気兼ねをすることなく、協力することに熱心であることが重要だと思っている。今していることを楽しんで、好奇心旺盛で新しいことに敏感でオープンなダンサーになって欲しい」と語った。

第45回ローザンヌ国際バレエコンクール2017の結果

- 1位 ミケーレ・エスポジート(17歳) イタリア
- 2位 マリナ・フェルナンデス・ダ・コスタ・ドゥアルテ(17歳) ブラジル
- 3位 中尾太亮(17歳) 日本
- 4位 山元耕陽(15歳) 日本
- 5位 ローレン・ハンター(15歳) 米国
- 6位 スタニスワフ・ヴェグジン(18歳) ポーランド
- 7位 ディアナ・ジョルジア・イオネスク(16歳) ルーマニア
- 8位 スヌ・リム(17歳) 韓国

ローザンヌ国際バレエコンクール

15～18歳の若いダンサーを対象にした世界最高の国際コンクールの1つで、スイス西部ローザンヌで1973年から開催されており、若いダンサーの登竜門とも言われる。

今年は、2017年1月30日から2月4日まで開催され、36カ国から338名が同コンクールに応募したが、4日に行われた決勝には9カ国の20人が出場した。日本からは最多の4人が決勝に進出し、そのうち2人が入賞した。入賞者は、奨学金を受け取り希望するダンススクールかバレエカンパニーで1年間研修できる。

同コンクールではこれまで多数の日本のバレエダンサーを輩出し、吉田都さんや熊川哲也さん、そして昨年からは英国ロイヤル・バレエ団のプリンシパルとなった平野亮一さんや高田茜さんも入賞している。

メールアドレスをご登録いただいた方に、トップ記事を配信しています。是非ご登録ください。

メールアドレス

登録する